

ゴミが売れる

45分別・徹底リサイクルで年間250万円

「葉っぱビジネス」の次は 「ゴミビジネス」!?

徳島県上勝町より

文〓編集部

写真〓小倉隆人

「葉っぱビジネス」と聞けば、ピンとくる方もいるだろう。

四季折々の里山の葉っぱを料理の〓つま〓用に出荷して稼ぐ

元気な高齢者たちが注目される徳島県上勝町^{かみかつ}。

2003年、日本で最初に「ゼロ・ウェイスト」(焼却・

埋め立てごみをなくす)宣言をした町でもある。

葉っぱの次は資源ごみを売って元気になる。

日本一のごみ分別に取り組む現場を訪ねた。

資源ごみの種類ごとに分けられた
コンテナの上には、業者への引き
渡し単価が表示してある





今年11月の完成に向け、現在は仮設の日比ヶ谷ごみステーション。左からスタッフの青木俊英さん、清原一幸さん、上勝町役場企画環境課の菅翠さん



ごみは、家である程度分別して溜めておく。月に数回まとめて出す人が多い

ごみ収集車が走らない町

徳島市内から車で1時間半、徳島県のほぼ真ん中にある勝浦川の上流に上勝町はある。総面積の88%が森林で、平地はほとんどない。標高100〜800mに点在する55の集落には、現在780世帯、1540人が暮らしている。以前から、この町にはごみ収集車が存在しない。回収もないので集落ごとのごみ捨て場もない。家のごみは各自が車に積んで、町の中心にある「日比ヶ谷^{ひびがた}ごみステーション」(以下、ごみステーション)という町営のごみ集積場に運び込んでいる。

一番遠い集落は片道15kmもある。ごみ捨てのために、わざわざ車を出すなんて大変と思われるが、ごみステーションには、ごみの種類ごとの曜日指定がない。年末年始の3日間の休日以外は、午前7時30分〜午後2時の間なら、いつでも持ち込める。なので、朝、直売所に野菜を出荷するとき、日曜日に徳島市内に買い物に行くときなど、何かの「ついで」にごみを出すという感覚なのだ。

捨てればごみ、分別すれば売れる

取材当日も、朝8時30分を過ぎたところから、ごみを積んだ車がポツポツやって来た。

1カ月ぶりにごみ捨てにきたという70代の夫婦は、軽トラに大量に積んだごみ袋を降ろすと、ごみステーションの中に置かれたコンテナに、袋からごみを取り出してはポイポイ入れていく。